様式3

学校番号 73

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　ありあけ新世　高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	一人一人の興味関心に応じた学びを通して、主体的に自分の人生を切り拓き、地域で活躍できる人材を育成する学校 生徒一人一人の希望進路を実現するために、基礎学力の定着を図るとともに、総合学科の強みを生かした充実した キャリア教育を実践し、主体的に考え行動する力を身に付けた、地域に貢献できる人材を育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に関する方針）	①夢や目標を持ち、チャレンジ精神を身に付け、「なりたい自分」に向かって努力を継続できる力 ②自分で課題を見つけ、考え、自主的に判断して適切に解決する力 ③困難な課題を解決に導くため、既存の発想にとらわれず、柔軟に向き合い、新しい解決方法を探る力
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針）	①3年間を見通した計画的で充実したキャリア教育 ②普通教科から体験的な学習を重視した幅広い専門教科まで100を超える科目から選択できる生徒の進路や適性・興味・関心に応じたオリジナルの時間割作成が可能なカリキュラム ③総合学科ならではの少人数授業の展開と進路実現に活用できる数多くの資格取得の奨励
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針）	①明確な目的意識と旺盛な学習意欲や学校行事、生徒会活動、部活動等において、本校の中核となって活動する意欲を持つ生徒 ②総合学科高校が目指す、主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力等を伸ばそうとしている生徒 ③確かな学力、健やかな体、豊かな心を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる力を身に付けるため、学校ビジョン及び生徒行動指針の具現化に努める生徒

学校運営計画（4月）

学校運営方針 昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	評価 （総合）
[成果] 1　授業研究チームを中心に全職員で研修に取り組み、授業改善に一定の成果を残した。 2　新世マルシェや福島訪問は、地域や自治体を巻き込むことで、生徒たちの意識や意欲が高まり、大きな達成感が得られた。 3　一人一台タブレットの配布により、授業以外での活用が広がり、個別最適な学びの環境整備が進んだ。 4　体験入学の複数回実施やインスタグラムの開設により、効果的な生徒募集や若年層への広報が充実した。 [課題] 1　総合学科の特長を生かした進路実現を充実させる。 2　引き続き授業改善に取り組むとともに様々な学習活動を対外的に実績が挙げられるレベルまで高める。 3　教育相談体制を拡充し、中途退学や不登校防止対策を強化する。	1　生きて働く知識・技能の修得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を実現できる学習指導	（1）ICTを日常的に活用できる環境を整え、「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 （2）授業アンケートや相互授業参観を実施し、積極的に授業改善に取り組む。 （3）学習効果を高めるため、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。	A
	2　将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践	（1）夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、第1希望進路実現のために、3年間を見通した進路指導体制を確立する。 （2）「産社・総探」の指導内容の共通理解を図り、3年間を見通した系統的なキャリア教育を実践する。 （3）すべての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図る。	
	3　規律と責任を重んじ、人間性を高め、自主性や主体性を涵養する生徒指導	（1）基本的生活習慣の確立とともに、「新世スマイル」「立ち止まり挨拶」を長期的展望に立って指導する。 （2）生徒会活動、部活動、学校行事、ボランティア活動など、あらゆる機会を通し、生徒の自己指導能力を高めるとともに、チャレンジ精神を培う。 （3）いじめや不登校等を未然に防止し、早期に発見・対応するための取組の強化を図るとともに、外部の専門家や関係機関と連携し、組織的に対応する。	
	4　家庭や地域から信頼される学校運営と積極的な広報活動	（1）生徒と向き合う時間を最優先に確保し、家庭、地域等と連携しながら、きめ細かく対応するとともに、教育活動を組織的に行い、安心・安全な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。 （2）本校の強みや学科の魅力を中学生や保護者、中学校職員等へ積極的かつ効果的に発信することで、本校入学志願者の確保に努める。 （3）「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域の人的資源等を活用し、学校教育を社会との連携の中で実現する。	
	5　地域から学び、地域を支え、地域とともに成長する生徒の育成	（1）ボランティアをはじめ、地域との交流活動や体験的学習を積極的に推進する。 （2）地域人材による講演会等を計画的に実施して学びの機会を広げ、課題の発見や解決に向かう力を養う。 （3）行政や企業、大学等と積極的に連携し、地域の課題解決や提案などの取組を積極的に推進する。	

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務	学習指導要領に基づいたカリキュラムについて、全職員の共通理解を図る。	カリキュラムの内容・趣旨を確認し、効果的な指導法や新たな方策について各教科で検討し、授業満足度を向上させる。	授業の満足度：97.1% ガイダンスの職員研修：1回実施 授業改善シート：振り返り2回実施 学校設定科目：3科目変更予定	B	B	B	授業アンケートを基に、授業改善、授業満足度の向上を図り、職員研修等を利用して共通理解を図っていく。令和8、9年度入学生に対する学校設定科目及び群の再編成を検討していく。	A	・本年度、進学強化委員会が、実施できなかったのはなぜか。次年度は計画的に実施してほしい。 ・5教科以外にも様々な学びがあるところをアピールしてほしい。 ・生徒一人一人を大切し、教育活動がなされていることが感じられた。多くの体験をとおして、教師と生徒が一体となって指導されていることは非常に良い。
		スクールミッションについて理解を深め、職員研修会や分掌会、年次会等で重点目標等の共通理解を図る。		B					
		学校設定科目を再検討し、生徒が主体的に学ぶことができる学校設定科目を新設・再編し、群を再配置する。		B					
	主体的・対話的で深い学びに基づく、確かな学力をつけDeep learningを定着させる。	ICT等を活用した授業研究を推進し、1人年2回相互授業参観を行うことで授業改善し「わくわく・胸躍る」授業を目指す。	相互授業参観：2回実施 授業の満足度：97.1% 評価についての研修会：1回実施	A	B		広報企画・研修課と相互授業参観を活用し授業改善を行っていく。各教科の目標準拠型評価に基づいた効果的な指導を基に「主体的・対話的で深い学び」の研究を進めていく。		
		目標準拠型評価（観点別評価）の効果的活用方法を研究し、授業の工夫により生徒の主体的・対話的で深い学びを進める。		B					
		主体的・対話的で深い学びを実感できる学力の評価・指導についての研修会を2回以上行う。		B					
	個々の生徒の実態を把握し、能力・適性に応じた指導実践を行う。	進学強化委員会を年3回実施し、指導内容や指導方法について協議を行い、本校の生徒の実態に合った指導のあり方を検討する。	進学強化委員会：実施なし　皆勤率：50% 学習時間：1年次214分、2年次174分、3年次174分 学習状況リサーチ（年次平均） 2年次GTZ：C2→C2　1年次GTZ：D1→C3	B	B		進学強化クラスの総括を行い指導方針を改善していく。学習時間調査やスタディーサポート等の進路に関する教材を効果的に活用し定期考査、模擬試験、資格取得の結果向上につなげていく。		
		規則正しい生活習慣と授業規律を確立させ、皆勤率50%・家庭学習時間（年次＋2時間）を目指す。		B					
		生徒の進路希望に関する情報を精査・分析し、ガイダンス等で効果的な面談を行い生徒の意欲向上を図る。		A					
広報企画・研修	令和7年度の新入生160名定員確保を目指し、本校の魅力を中学校及び地域に発信する。	本校の教育活動を中学校及び中学生に知らせるため、中学校訪問を年3回以上実施する。	中学校訪問：年3回実施 体験入学の中学生・保護者の満足度：ほぼ100% webページ更新20回以上、インスタグラム60回以上更新 取材依頼：年7回実施	A	A	A	中学生体験入学では気候を考慮し、内容を変更して行ったが、次年度は本校教育活動の成果を更に示すことができるような工夫が必要である。また、実施計画等は早期に作成し余裕をもって準備する。	A	・職員研修が形骸化しないようにお願いしたい。 ・体験入学の参加者と入試の実受検者数の関係を見て、次年度の体験入学参加者数の目標値を定めるべきである。 ・次年度は高校生と小学生のダンスを地域の高齢者に見せるなどの広報活動をしてはどうか。 ・ありあけ新世高校の活気ある姿を小学生に見せてほしい。
		中学生体験入学（部活動体験会を含む）を年2回実施する。400名の中学生の参加を目標とする。		B					
		情報管理課と連携し、学校Webページ、インスタグラムを適宜更新する。広報活動として、マスコミへの取材依頼を積極的に行う。		A					
	主体的・対話的で深い学びの実践を目指し、他の分掌と連携し、授業改善に取り組む。	授業を客観的に評価できるように、相互授業参観期間を年2回実施する。	相互授業参観：2回実施 授業アンケート：2回実施 情報管理課との打合せ：10回実施 ICT支援員との打合せ：5回以上実施	A	A		相互授業参観及び授業アンケートについては、計画的に行っているので、スムーズに実施できている。授業改善に係る他分掌との連携については、話し合いの時間を確保して取り組む。		
		生徒の授業に対する意識を確認するため、授業改善アンケートを年2回実施する。		A					
		授業改善に係る作業がスムーズに行えるように、他の分掌と連携を密にする。		B					
	各分掌と連携し、教育活動のスムーズな運営を行う。	職員の指導力及び資質向上を目指し、他の部及び課と連携し、職員研修会を年7回実施する。	職員研修会：7回実施 希望図書リクエスト：10回実施 希望図書購入：100% 職員アンケート「早期に取り組むべきだ」：約20%	A	A		校外及び校内の行事の実施に係る準備が少し遅くなった。連携を要する行事については、進捗状況の確認会等を行うことにより、共通理解を図る。		
		幅広い教養を身に付けるため、図書委員会との連携を図り、10分間の朝読書を推進する。		A					
		校外及び校内における事務処理をスムーズに行うために、管理職及び関係する機関及び分掌との報告、連絡、相談を早めに行う。		B					
生徒指導	「reborn（リボーン）」コロナ禍を経験し、これから新たなステージに進む。	マスクの適正使用を促す	校風委員会：3回実施 体育大会アンケート 開催期間：88.2%適切 練習期間：70.6%適切	A	A	A	「時間厳守」を励行し、挨拶においては、校風委員会を中心に「素敵な挨拶運動」に取り組む。 体育大会は、早めに職員・生徒の組織作りを行い、練習日程やプログラム等を計画する。	A	・生徒による「いじめ防止委員会」新設の評価がCとなっているが、評価の判断がわかりづらい。次年度は生徒も巻き込み、いじめ防止に努めてほしい。 ・ボランティア活動は、生徒にとっても、地域にとっても重要なので今後も促進していってほしい。 ・「新世生の一言言わせて」は、他者の考えを知る良い機会である。充実を願う。 ・女子生徒の部活動の活性化をお願いしたい。
		規律や秩序の再構築を図るために、挨拶や時間を守る習慣をつける。		B					
		生徒会を中心に行事の改廃を行う。		A					
	主体性やチャレンジ精神を育成する。	各委員会は目標達成するための、企画を行い実行する。	ボランティア活動　依頼数：105件 参加数：　83件 「新世生の一言、言わせて」 実施：　12回	A	A		ボランティア活動に対する生徒の意識は高い。次年度は、さらにボランティアの意義や取り組み方を伝え、意欲的に取り組ませる。 「新世生の一言言わせて」は、多くの生徒に影響を与えているため、様々な場面で発表させたい。		
		ボランティア活動の促進と体制を強化する。		A					
		「新世生の一言、言わせて」を実施する。		A					
	安心・安全な学校を目指し、危機管理の徹底と規範意識の醸成を図る。	生徒委員会に「いじめ防止委員会」（仮称）を新設し、啓発活動等を行う。	いじめに関する職員研修会 実施：　1回 いじめアンケート　実施：　9回 校則見直し検討　実施：　0回	C	A		いじめアンケートでは、いじめの実態を把握することができた。次年度もいじめの未然防止・早期発見・解消に努める。 昨年度、校則の変更を行い、今年度は生徒心得と生徒指導内規の分割整理を行った。		
		いじめに関する研修会を積極的に行い、未然防止に努める。		A					
		校則の見直しを継続しながら、新ルールの定着を図る。		A					
保健環境	心身の安全や健康への意識を高め、心身ともに健康管理ができる生徒を育成する。	健康の専門家による講演会を実施し、生徒の関心を高める。	薬物乱用防止講演会アンケート「薬物の危険性に関する知識を得た」：98% 生徒保健委員会：9回実施 生徒保健だより：18回発行 教育相談週間：1回実施	B	A	A	講演会等で生徒の健康に対する意識を高めることができた。生徒保健委員会はよく機能している。今年度は外部機関を含め相談できる機会が多く相談環境が整っていた。今後も継続したい。	A	・SC、SSW、学校訪問相談員等生徒が相談できる場を多く設け、手厚い指導が感じられる。今後も継続した対応をお願いしたい。 ・清掃活動を熱心に取り組み、教育環境の整備、そして落ち着いた中での教育活動をお願いしたい。 ・いじめについては学校全体で取り組んでほしい。
		保健委員会を活性化させ、委員会を定期的に開催し、行事等で保健に関する業務を行う。		A					
		教育相談週間なども活用し、相談環境の整備、周知をし、相談を促す。		A					
	教育相談体制の充実を図り、連絡体制、支援体制をより良くする。	教育相談委員会を毎月開催し情報共有、早期対応につなげる。	教育相談委員会：12回実施 いじめアンケート：9回、学校生活アンケート：3回、保護者チェックリスト：2回 SC：15回、SSW：14回、訪問相談員：21回	A	A		いじめアンケート、学校生活アンケートは計画どおり、教育相談委員会は毎月1回実施できた。外部相談機関の活用もできている。次年度は、さらに早期の情報共有に努め丁寧な対応をしたい。		
		いじめアンケート、学校生活アンケートを毎月実施し、生徒理解につなげる。		A					
		SC、訪問相談員、SSWなど、関係諸機関との連携を図り、必要な支援を行う。		B					
	環境・美化活動への関心を高め、活動につなげる生徒を育成する。	環境美化委員会を活性化させ、環境美化だよりを継続し、環境美化への関心を高める。	環境美化委員会：8回実施 環境美化だより：2回発行 クリーンアップウィーク：2回実施 環境美化だよりでワンヘルスについて特集：1回	B	B		生徒環境美化委員はよく機能している。クリーンアップウィーク等計画どおりに行っているが、次年度は方法を工夫し、生徒が環境や清掃への意識をさらに高められるよう改善していきたい。		
		クリーンアップウィークを年2回行い、清掃に対する意識を高める。		B					
		ワンヘルスに関する取り組みを取り入れる。		B					

進路指導	夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成する。	「進路の手引き」を活用し、早めに進路希望を明確にして1～3年間の見通しをもたせる。□	・進路の手引き「活用できている（ある程度含む）」：全体5割、1・2年次4割、3年次6割	B	B	B	手引きは1・2年次こそ活用の効果が期待できるので、年次と協力して活用機会を設ける。年次主導のガイダンスや講演会等については、より適切なサポートを行う。進路指導課は十分な情報提供を行い、各年次との連携を深めて実施する。	A	・国公立大学の進学者数が4名と少なく感じている。以前のように、総合学科枠を利用した入試に向けて、組織的、計画的に取り組んでほしい。 ・小さな成功体験を積んで、自分を活かせる大人になってほしい。 ・公務員対応の授業が学べることを知らなかったので、アピールした方が良い。 ・模試を受けた生徒への指導と分析が必要である。
		進路関係を含む諸行事への主体的な参加を通して、自らの成長を実感し、自己肯定感と進路意識を高める。□		A					
		進路応援助成金の活用を促し、取得した資格を就職や進学に向けた自身の強みとする。□		B					
	個に応じた指導体制を確立し、すべての生徒の第1希望進路実現を目指す。	進学希望者には、短期的目標を立てさせ、模試結果のフィードバックを丁寧に行う。□	・模試結果の振り返り「できている（ある程度含む）」：1・2年次2割強、3年次8割	B	B		模試結果の振り返りは年次格差を踏まえ、1・2年次の振り返りを高めるべく丁寧なフィードバックを行う。そのための分析・分析会のあり方は再検討する。キャリアパスポートは精選・削減を主眼に内容と実施方法を再検討する。		
		公務員を含む就職希望者には、チームとして互いに切磋琢磨させ、総合的な力を伸ばす。□		B					
		キャリアパスポートを活用し、生徒自身が振り返りを行う機会を充実させる。□		B					
	進路実現に必要な確かな学力を身に付けさせる。□	教科、年次、他分掌と連携して、確実な基礎基本の定着と伸長を図る。□	・課外「満足（ある程度含む）」：9割以上、「学力の伸び」の実感：7割 ・「受験対応ができた（ある程度含む）」：5割	B	B		課外の内容の充実については、各教科にさらなる検討を依頼し引き続き尽力していただく。受験の多様化には年次・外部機関と連携して早期にスケジュールを構築し、早期対応を図る。面接初期と小論文の指導体制は進路が主導する。		
		成績上位層を伸ばすため、授業や模試、資格と関連させた課外の内容の充実を図る。□		B					
		一つの受験方法に頼らない学力強化を図り、多様な受験方法への対応力をつける。□		B					
総合学科推進	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けた能力と態度の育成を図る。	3年間を通した系統的なキャリア教育の共通理解を図り、年次の産社・総探担当者に探究活動などの情報提供を行う。	・「『産社』『総探』は自身の成長や進路について考える上で有意義な授業だった。」：1年次97.1%，2年次75.7%，3年次94.8%（アンケート2回実施）	A	A	A	メソッド中心の「課題研究」から現行学習指導要領に基づく「探究活動」へ脱皮するとともに，キャリア教育を通じて「何ができるようになったか」というコンピテンシーベースで評価できるように大胆な戦略の転換が必要とされる。	A	・総合学科発表会を見て、高校生にこんなことができるのかと衝撃を受けた。当日の動画を保護者に見せた方が良い。 ・総合学科発表会で発表した1年次生徒に中学校に4月の早い時期に来校したもらい発表してほしい。
		全教育活動の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の育成を意図した指導、助言及び評価を行う。		A					
		産社・総探の授業においては、授業担当者が共通理解をもって指導を行うことができるよう指導案を作成する。		A					
	「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。	1年次の「産社」では、体験的な活動や協働的学び合いを重視し、科目選択や進路実現に結びつくようライフプランを作り、全生徒が自分の言葉で原稿なしによる発表を行う。	・「原稿がなくても発表できる」：1年次84.7%，「自分の意図を他者に伝えられる」：2年次84.3%，「2年次より進路や学習する意義を考えた」：3年次92.8%（アンケート2回実施）	A	B		リサーチクエスチョンなどの方法を用いて，探究の基本を全員がふまえるとともに，積極的に外部コンテストへの応募を推進し入賞者を出したい。また，地域おこしの一環としての「新世マルシェ」や福島県との交流は形を変えても継続させたい。		
		2年次の「総探」では、個々の進路目標や興味・関心に応じた課題設定を基に課題研究を行い、全生徒がプレゼンテーションを行い、研究の成果を発表する。		B					
		3年次の「総探」では、協働的な探究活動を通し、これまでの探究活動をさらに深化させることにより、全生徒の第一希望での進路実現を目指す。		B					
	地域との連携を積極的に進め、地域の課題を発見し解決する力などの育成を図る。	社会人や本校卒業生、地域で活躍されている方による講演会を前期に実施する。	・「講演会を含めた授業満足度」：1年次72.3%，2年次98.5%，3年次98.9%（アンケート2回実施） ・ホームページ更新2回	A	A		外部講演会として，福島県の震災語り部による紙芝居を行ったほか，実業界，映画界から多様な人々を招聘して講演会を行った。大牟田市の活性化に貢献する「新世マルシェ」を行った。また，高専連携の一環として麻生公務員専門学校による面接指導を行った。		
		行政や企業、大学等との連携を中心となって進め、活動報告を総合学科発表会で発表する。		A					
		産社・総探などの活動や成果を地域に発信するために、前期、後期それぞれ5回はホームページの更新を行う。		B					
情報管理	テクノロジーインフラを強化する。	現在の課題を集約し、校内のITインフラストラクチャーを改善する。	ICT活用アンケート 「ほぼ毎日使う」：73.7% 「週に数回使う」：25.3% （ICT機器活用：99%） 「役に立っている」：98.2%	B	B	B	校内でのICT機器の活用はchromebook導入後、飛躍的に進み定着してきた。今後は家庭でも学習で活用できるよう整備を図る。また、活用状況が日常となった現在、多くの障害が多発している。しかし障害や故障時の対応マニュアルを事案ごとに作成しているため、迅速に対応できるようになった。引き続き整備に努める。	A	・ICT活用については、現在及び将来的にも重要となっているので、生徒はもちろん教職員も充分に活用できるようにしてほしい。 ・生徒の個人情報の取扱いには充分気をつけてもらいたい。
		障害対策とリカバリー、障害が発生した場合に迅速に対応するための手順を策定しネットワークの可用性を向上させる。		B					
		ICT機器の利用手順・手続きを明確化し共通認識を図る。		A					
	生徒および職員への情報技術の利用やデジタルツールの活用に関する情報の提供、支援の充実を図る。	学習者用端末の活用を推進するため、生徒ポータルやアプリの活用情報を提供し支援する。	ICT活用アンケート 「GoogleClassroom活用」：92% 「サポートやICT研修が必要」：35% 「学校の指示や連絡確認のため」：79.3%	A	A		職員室前の掲示板から生徒ポータルへ移行できた。アンケート結果が示すように予想以上に活用効果があり今後も積極的に運用していく。さらにICT機器の活用には個人差があるため今後も個別研修などを定期的に開催する。		
		最新の技術トレンドなどの情報を収集し、有効な技術を授業や校務システムに活用する。		B					
		新CMSシステム（学校ホームページ作成システム）へ移行する。		A					
	データセキュリティの向上を図る。	重要なデータや個人情報を保護するために暗号化フォルダの積極的活用などセキュリティ対策を強化する。	ICT活用アンケート「セキュリティや個人情報保護に不安感じたことがあまりない」・「全くない」：90% データ管理：3回実施 アンケート時注意：3回、事例周知：5回	B	B		セキュリティ対策は常に講じていかなくてはならない。多様なデバイスが混在する状況の中、ルールを明確化するなど今後も適切に対策を強化していく。問題事例の周知を適宜行ってきたため、セキュリティに対する共通認識がある程度整っているが個人差があるようだ。今後も個人情報の保護管理やアカウント管理など整備を進めて行く。		
		重要なデータの保護と可用性を確保するために不要データの削除やバックアップなど定期的なデータ管理を実施する。		A					
		特に行事前後や職員研修会など適切な機会に問題事象などの事例や情報を生徒・職員に提供することによりセキュリティや規範意識の醸成を図る。		B					

1年次	生徒一人ひとりの希望進路実現を見据え、確かな学力を身につけた生徒を育成する。	学びなおしを充実させ、スタディサポートにおけるGTZでBゾーン以上の生徒50名を目指す。	Bゾーン以上：13名 検定合格，資格取得：14名 学習時間調査 6月：234．5分 9月：226．6分 11月：208．7分	C	B	A	昨年度、一昨年度のBゾーン以上の生徒数と比べると半減している。大学受験を希望している生徒を中心に、課外授業等で学力を向上させる。1月以降に実施される、実用英語技能検定、漢字検定、情報処理検定を受験する生徒が多数いる。次年度は、進路に応じた検定合格を目指す。学習時間については、考査前の調査結果ではあるが、180分は超えている。次年度も家庭学習を続けていくよう指導する。	A	・GTZのBゾーン以上の数値目標が達成されていない理由を記載し、今後の対策を進路指導課と連携して行う必要がある。 ・検定取得や家庭学習の定着を図ってほしい。 ・授業参観において、ディベートに取り組んであり、とても素晴らしかった。次年度の「総合的な探究の時間」を期待したい。
		積極的な資格取得を促し、全生徒が1つ以上の検定に合格し、資格を取得することを目指す。		B					
		学習習慣を定着させ、考査前の学習時間調査において180分以上を目指す。		A					
	キャリア教育を充実させ、主体的に考え、行動する生徒を育成する。	原稿なしスピーチを徹底し、人前で自分の考えを述べたり、プレゼンを行うことで「自己表現力」を高める。	「原稿がなくても発表できた」：85% 「入学前と比べて、自身の進路を明確に考えることができた」：97% 5段階自己評価 「主体性を高めることができた」：3．6 「地域や人のために何かをすることの大切さを感じることができた」：3．8	A	A		大多数の生徒が原稿がなくても発表できた。また、8割の生徒が発表活動に慣れたこともアンケートからわかっており、自己表現力の向上につながった。また、多くの生徒が主体性を高め、地域貢献の大切さなどを感じている。適性検査や社会人講演会、ガイダンスなどを通して、自身の進路について真剣に考えることができた。次年度は苦手な生徒をどのように発表に向かわせるかを工夫したい。		
		学校行事やボランティア活動など体験的な活動を通して、主体性を高め、社会奉仕の気持ちや、地域に貢献することに誇りを持たせる。		B					
		社会人講話や卒業生講話を行い、職業人としての資質、能力を理解し、自己のやるべきことを明確にし、「ライフプラン」作成につなげる。		A					
	失敗を恐れず、進んで行動し、いろいろなことにチャレンジする生徒を育成する。	5分前行動、笑顔で挨拶、環境整備を徹底させ、当たり前を当たり前にできる生徒を育成する。	5段階自己評価 「朝読の準備」、「授業の教材準備」、「移動教室」：4以上 「笑顔で挨拶」：3．4「掃除の取組」4．1 「終礼後の教室整理」4．4 モザイクアート実行委員：5名 年次通信：2回発行	B	A		時間を守る、教室の整理は評価が高い。しかし、挨拶に関して評価が低い。今後も挨拶指導を続けていく。1年次企画としてモザイクアートを完成させ、文化祭で披露することができた。実行委員の生徒を中心に進めることができたので、次年度も生徒を中心に活動できる年次にしていく。計画的に年次通信を発行することができている。今後も定期的に発行し、年次から保護者への情報発信を続けていく。		
		生徒たちが年次の行事の運営などを行うことで、「新世生」としての意識を高め、企画力などを身に付けさせる。		A					
		年次通信を4回は発行し、生徒たちの活動や成長の様子を保護者に向けて発信する。		A					
2年次	進路意識を高め、進路実現に必要な学力を身に付けた生徒を育成する。	進研模試については偏差値50以上の生徒を最低10名、Bゾーンを30名以上、B1以上を10名以上を目指す。	Bゾーン以上:25名、B1以上:0名 偏差値50以上:1名 オープンキャンパス参加生徒：70名 学習時間調査 6月：平均184分、9月：平均169分 11月：平均163分	B	B	B	学力向上の点では課題が残ったが、偏差値が高い生徒や国公立大を目指す生徒もいるため、学校推薦型や総合型選抜にも対応できるよう指導していく。早い内からオープンキャンパスに行かせることで進路意識の向上に繋がった。	A	・次年度は多岐にわたる進路指導をしっかりお願いしたい。特に国公立大については、総合型選抜など本校の特色が活かせる入試形態への対策を計画的かつ効果的に実施してほしい。 ・様々な行事をとおして、自己肯定感や達成感を養い、次へチャレンジする態度を育ててほしい。
		オープンキャンパスに行く計画を立て、一つでも多くの大学や専門学校に行かせる。		B					
		生活習慣を確立し、家庭学習時間を確保させることで平均240分の生徒を最低7割達成する。		B					
	キャリア教育を通して、主体的に企画し、実行できる生徒を育成する。	生徒が主体的になれる環境作りを行い、自らの考えを実行できる組織作りをする。	「主体的に取り組んだ」：6割 インタビュー実施：10人　4班 アンケート実施：30人　8班 「講演会に満足した」：9割	B	B		ドキュメンタリー映画の監督である青柳拓氏を招いての講演が生徒にとって貴重な経験となった。課題研究においては、調査結果からの考察への展開や新たな疑問を生むことに苦労していたため、教員からのアプローチが必要である。		
		課題研究の中で地域や地元の方々の声を拾い、課題を見つけ、自らの考えを提示する。		B					
		外部講師を招き、多くの知見を取り入れることで、より深い思考を身に付けさせる。		A					
	中核年次としての自覚を持ち、自らの考えを表現することのできる生徒を育成する。	学校行事や年次行事において活躍の場を設け、多くのアイディアを出させ、自らを活性化させる。	「学校行事に満足」：9割以上 コンクール・講演紹介：4回 年次通信：3回発行	B	B		学校行事に関して満足している生徒は多かったが、生徒たちが意見を出す機会を組織的に設けていくことが課題である。年次掲示板を「新世アゴラ」として生徒の考えを書ける場所に変えた。今後はより質の高い問いを提示していく。		
		年次掲示板の工夫を行い、外部のコンクールや講演を紹介し、情報発信する。		B					
		年次通信（3回以上発行）を有効活用し、生徒の成長を保護者へ発信する。		A					
3年次	主体的に自分の人生を切り拓き、第1希望進路実現100%を目指す。	4月中に二者面談を実施し、志望校検討会で情報の共有を図り、多様な進路に対応できる組織的な指導体制を確立する。	進路決定者125名(12月20日現在） 進路別学習時間集計（6月）（9月） 国公立大学(244分)(263.4分) 私立大学(200分)（168分） ゼミ形式：16回実施	B	B	B	4月中の二者面談は効果が大きい。面談で志望先を決定させる。志望校検討会や模試分析会で情報の共有はできた。本校として3年間を見通した組織的な指導体制の構築が課題である。	A	・卒業証書授与式での姿に成長と逞しさが感じられた。 ・卒業後も生徒たちへのフォローをお願いしたい。 ・本年度までの3年間の総括を行い、今後の指導に活かしてもらいたい。
		大学・短大・医療系希望者は課外、模試、学習時間調査等を活用し、学習時間300分を目標とする。専門学校、就職の生徒については180分を目標とする。		B					
		小論文・志望理由書ナビや面接指導「7人の侍」等を活用し、個々に応じた計画的な手だてを講じる。		B					
	キャリア教育を通して「なりたい自分」に向かって努力できる生徒を育成する。	感動の涙を3回流すことを合言葉に全力で取り組ませる。	「体育大会、第1志望実現に全力で取り組めた」：96% 「地域活性化に貢献できた（新世マルシェに参加した生徒）」：95%	A	A	B	概ね1,2年次の土台作りができたと考える。面接練習の際に経験したことはあっても話せない生徒が多い。進路実現に向けた具体的な取組や1年次からの系統的な指導が必要である。		
		キャリアデザインを共創し、進路実現に向けた取り組みや「新世マルシェ」を企画・運営することで、地域に根ざして活躍することに静かな誇りを持たせる。		A					
		ディベートや面接指導（7人の侍）、進路講演会を活用し、進路実現に向けて主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力を身につけさせる。		A					
	最上級年次（Team20期生）として保護者や地域社会との連携を図りながら、社会に貢献できる人材を育成する。	「時を守り　場を清め　礼を正す」姿を後輩に示し、最上級年次としての自覚と責任を持たせる。	「生徒が最上級生としての自覚と責任を持ち、先輩としての姿を後輩に示すことができた」：80.4%	A	B		最上級生としてのあるべき姿は伝統となっている。行事で培った力が継続できていないことが課題である。進路情報（スタサポや模試の結果分析等）を分かりやすく生徒・保護者へ還元し、活用するために教員も学ぶ。		
		進路講演会やchromeを活用した三者面談を実施し、保護者との信頼関係を構築する。		B					
		メディア、HP、インスタ、年次通信（年3回）を活用し、「新世ブランド」としての生徒の活動を発信する。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・国公立大学入試の学校推薦型選抜において、総合学科や商業、農業枠を使った入試に対応した情報を収集し、その対策をキャリア教育部が中心となり計画的、組織的に実施する。
・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」で実施する、課題研究やディベート、新世マルシェなどの学習活動を更に進化させて、生徒が自ら課題を設定し、情報を収集・分析して新たな考えを生み出す力と表現力を養い、総合学科発表会や地域貢献活動を実施していく。
・SCやSSW、訪問相談員等を活用した相談体制をより充実させ、中途退学や不登校防止対策を強化する。
・多様な進路希望に対応するために、個別最適な学びを実現する授業改善や教育環境の整備に努める。
・本校の特色的な取り組みや諸活動をSNSなどを利用して発信し、効果的かつ積極的な広報活動に努める。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
・「総合学科の特色を生かした教育活動及び進路実現を目指し、地域に信頼される日本一の総合学科を目指す」ことが一番の重点目標になると思われる。引き続き邁進してほしい。	